



繪本豊臣勲功記

三編
七

遠13
2209
27



特
13 遠
2209 稱
27 卷

繪本豊臣勲功記三編七之卷

目錄

清正智計鎮本村井上象きよまさのちかまのむらのかみいさやま

屬兩人詰姓ふたりにあはせむね

加藤虎之助強縁心望知次かとうとらのすけたけのちか縁こころのぞ

屬石田出身いしだのうしな

繪本豊臣勲功記三編七之卷

衛家守長光寺與兼領戰

馬敵新水路

秀吉智計棄籠江故柴田

馬勝家破蒲



繪本豊臣勲功記之編卷之七

櫻澤堂山 編輯

清正智計鎮木村井上争馬西人結姓

徳孤をらむ必隣をなむと旨ありう於中村の一村小して加

藤福島の二英雄を生ること誠小更よく秀吉を補佐す

さしひ縁故をり然れど小加藤福島兩人を駿卒と隨(東地

の巷まじ急る輝かく巡らまらるが一日加藤虎之助長浜の城下

を離れ仔細小見巡り行なるに長浜谷と小谷谷との場のみち小

乗来る時を不審いなる事ありたりやや。寡人態の武士二人は

論をして在りしが於て双方太刀合たり一個の面貌色白く一

の杖六尺有餘あり。一個の黒き顔色小して眼光さながら星注如





く。身は抄五天小過ぎりたる。逆小修練の壮士小て。用合出沒電
 火の像く。激浪よりも疾々まきばのづきは贏小や輪る小や雌雄も
 更小見(と)こむ。初る前(小)右より。淺井の駿卒數十人出まりし
 此態を看よりも。孰個をまきば這地小おのて。自己くくの恨小より。
 道路の輩は妨をぞ。糧籍者面撞倒して。活操やつと来れぬ
 たる。虎之助の初度より。二個が不作を見替りたる其術迹小
 尋常ならむ。是凡人小あらざるべし。方僅淺井家の駿卒
 輩小摘させんも不便あり。思村を听て法めをやと去るを
 どあ人も一心不亂小戦ひるまは。他の詞の耳小も容をぞ。外賢
 女坊とてんへる。所へ淺井の駿卒四方より。簇々くと起る。鬼手
 小半小得道具携来り。うち倒さんとる。乃まきば。両士まきく。憤

怒を著し。憎き奴輩が拳動る。武士の刀を收鎮小作法
 も知ぬ奇怪さよ。先遣奴們を殺して。后靜小備員を決を
 置し。と音のせりたる。右小別を淺井の駿卒小走向ひ。太刀
 風信く。破起りまは。心を知らざる小卒軍。一遮小も是らるる。霜
 小惱める。紅緋系は。風小巻る。像く。東小亂る。西小散。眠くも
 颯と連走。然る小色白き。偉漢加藤が。名士を率従へ。隣畔小
 見撃して。まきし。淺井家の駿卒と。懐疑り。さし小や。微塵
 小せんと。吹く。蕨る。加藤の名士們。是非なくも。奇合を。さし
 かんく。彼偉漢小。係ひ。斬ハ。理非知ぬ。侍士。初我を。使
 より。其旁。倫が。拳論の。釋を。問んと。欲し。声を。く。是と。言も。ぬく。
 初て。我隊の。名士。輩小。吹て。蕨れ。る。を。法の。拳動。酒小。性根。を。棄

とていふ事も見つぬ修練のちの命尋常ありぬ義重の勇士備
くと思ひて徒死やせん懸わがら。法を礼せざるは許さぬ。評と述れ
ぞ擁めよと指揮ありは是れ士軍の擒せんと志を養ふ。彼大漢の
おふおひひん。提する刀抛棄て。捕めよと覚悟の体。小虎之助の
て敵し。流漢あらんと程縁うら。緝捕の勇士們思慮も及
た。左右なる。郷導するはうら。對敵の漢子も返り。此態を視
く。眼を怒ら。志を我侮。對刀あり。いふは勝負も決せぬ。うら
ふ。郷めらう。いふ事ぞ。うらとく。對敵をこそし。いふと。加藤の勇士小
懸く。懸くと。遠ぬも。法をよる者。うら。汝が對敵を得心。いふ刀を
投り。郷められ。いふ。不審も。知らて。横際より。敵懸。こそ不審。うら
を。我あらば。是非。小及。うら。遠ぬも。小擁。提んと。大懸。一。小。うら

懸ると法正。勇士小聲。うけ。酒小狂。う者。うら。疾つけぬ。やう。協と。
制し。うら。小。後。各。重。う。後。公。軍。の。統。と。うら。ま。と。齡。年。
き。清。正。の。登。功。を。他。小。見。せん。と。あり。い。迷。衆。起。く。降。らん。と。を。
法。正。年。の。弱。々。も。思。慮。深。く。い。志。を。止。免。あ。士。を。森。の
本。陰。小。伴。ひ。懸。懸。小。體。を。う。と。う。朝。あ。ぐ。う。小。重。う。う。や。う。
柔。方。二。人。の。態。を。視。る。小。勇。氣。と。い。ひ。武。藝。と。い。ひ。又。嗜。養。世。に
個。々。なり。斯。く。戦。國。小。あり。う。ら。う。良。主。を。擧。げて。こ。こ。小。仕。へ。涯。の。忠。心
を。こ。こ。い。な。ば。立。身。せん。と。頼。ひ。う。ら。ん。然。る。小。怠。廢。る。遺。恨。あ。る
小。や。う。ち。果。し。し。果。さ。る。も。し。て。後。換。せん。と。を。来。り。て。朽。憾。い。ふ
存。在。あり。新。重。を。乃。量。の。長。濱。の。城。に。本。下。者。吉。兵。衛。秀。吉。が
臣。家。加。藤。虎。之。助。と。い。ふ。者。あり。看。ら。う。妙。兒。若。軍。の。主。人

の命を奪つて領地の非常を戒めんため巡合せしむ方僅岐所
 小某方達の所行を視違ふを益の事と存ししむ由へ返割し
 止めしり中小説を偉漢を緝捕のまさ小捕めんとするに
 倉卒小提を刀を抛棄覺悟の縛索を受らし一に定めて曉
 暎にあり緝ならん。その方者遺恨もあつて立別ふくハ放ち
 返さん。備も思つた恨怒ありて是非小捕頭を決んとする事
 の思枝を演説あつて。道理小稱を堅固と心結随小爾をし
 めんと理非を明小説所せ。二個の縛索を解放ちし。這响
 友人酔醒て死後の情味しる。稍ありて偉漢面目むげ小頭
 を擡げおそく。雲しるやう小子今日替氣を消さんと酒席小
 扱く一層傾けしおおのをも。沈酔にあり小身をさすれ

大事の命を失さんとせし釋うもくも後悔あり。今更慙愧小
 堪さども。我身のうを所しむれば。小子早く父小去ま。母一
 人小頼了。戦國の世小信身の良主を討め奉公せんと思ハ
 ざる少あざされども。無きまは這身自由あらむ。何とも期らぬ
 軍事あるを。倘我戦場小殺死せ。残る老母を誰うま。養
 せん者の作べ。そまを懐く。新後るく。零落るがらもまを真め
 老母を母と朝夕小母の心結随く。世を推演するん。つ
 一。老母近來病は枉さ。良醫を信く。親せしむる。小老後の病
 症薬餌小よ。唯懇切小介抱せよ。と教ゆる。小より心結随く。
 今日まも孝行し。つる。不圖自分の財を得ま。切ら母の口小
 稱ふ。魚肉せ。得ん。は。と長濱の街へ出来り。ぬ。期ある。母の命と

例よりも、その別離の悲哀さ小心のよ、結きて、流のせは
 敢ぬを、終らさん、酒肆小投心帯て、酒をま、一杯傾け、懐
 母小面を見せさんもの、と、おひ、ことも、頼て、好む癖ある、海量の
 愚昧、二盃を、飲過し、自己を、忘きて、連行樹の、陰小、例
 一が、酒を、犯さ、懐を、争論を、做費し、適う、道なく、戦ふ
 うち、貴士の、一言、膽を、貫た、徒換せんとの、親小、恥、忽地、酔も、醒
 果て、頻小、母を、思ひ、悩、搦めら、ま、バ、彼男と、勝敗を、さ、災、大も
 適を、ぬべしと、意づき、故意を、禮の、事を、奉止、形、締結を、うけたる
 あり、然る、小、意、最、活き、計、行小、あ、つ、條、我、身、の、執、喜、う、く、中
 つ、親小、も、演、尽、さ、ま、を、對、刀小、あ、つ、侍、士、ら、原、來、智、者、小、あ
 ら、ま、ま、遺、恨、あ、つ、れ、源、坂、を、一、全、く、酒、狂、の、ま、を、言、あ、つ、是、小

も、當て、乃、弟、小、恨、あ、つ、れ、事、ハ、あ、ら、し、逆、小、劍、痴、の、ま、社
 幸、つ、も、違、別、ま、ん、と、あ、つ、バ、飲、一、や、と、噴、身、の、う、は、始、終、を、決
 も、藏、さ、を、詔、う、つ、ろ、小、ぞ、虎、之、助、も、然、こ、を、あ、つ、め、と、感、一、の、ま、あ、つ
 公、ま、バ、對、向、の、宴、士、も、これ、を、所、返、答、さ、も、口、屈、を、う、一、遺、ハ、感、
 佩、一、つ、び、ハ、歎、息、一、稍、點、然、と、一、を、ま、つ、し、が、義、膽、小、せ、
 る、涙、を、拭、ひ、威、儀、儀、儀、ふ、く、重、一、つ、る、や、今、戦、國、の、指、意、と
 して、臆、を、厭、ひ、剛、を、慕、ふ、て、機、威、を、競、ふ、世、の、中、の、ま、は、昔、條、も
 御、學、堂、一、一、飛、り、て、立、身、せ、た、や、と、お、ひ、諸、國、を、經、巡、り、奉
 公、を、揮、く、心、ハ、惱、ま、さ、も、冬、落、ろ、小、極、り、身、を、彼、辱、ら、ん、と、ま、
 名、類、さ、し、普、探、お、ま、の、武、士、の、身、の、平、生、と、お、ひ、と、意、識、く、田、文
 野、人、の、貯、藏、を、棄、探、ん、も、不、便、あり、何、と、う、せ、ま、し、と、困、め、ら、ま、つ、

傳道洛之行機令ら。一個の武士が熟酔して。樹陰小甘圃
 として親着とく。之俟よく。親も衣履小相應とぬ常せし
 友刀尋常あふじと徹目より。定めて遠奴も昔經の族小て
 池の秘藏のた刀小刀を採捉する。先遠奴面を殺殺
 棄取んと悪心生じ。屏便刀小子を把し。唇く熟睡せし。は
 殺とら鄙怯の卷止小し。勇士の羞す不あり。然らば酔て喧嘩
 を做。菓殿果ささやと思ふ小より。酒を求めて直飲し。兼
 人らう。如く開ふこと。之十余合小及ひ。小子諸國を經歷し
 教多の勇士を對敵小せし。遠漢かとの修練小値偶を心中
 大小感をもとり。猶うも果し。刀を採んとかり。簿さ。遠小偶
 をも。郷ゆられし。も天合なり。と心せ悔む。機令も。お。方僅この

漢子の門禪老母小孝を盡さんとく。袖を堪ゆ。不志ハ。己が
 悪心。ハ雲泥墨雪。聞ふ。びごと小肺肝を刺す。如き。か。ひせり。
 今更。厥を。嗔とも。致す。使過を。草めん。ため。我悪心を。許さ。り。遠
 來。赦免せら。り。事此。上も。お。死恩澤。あり。と。東漢。小。虎之。幼。幼
 弱。これ。も。源慮の。者。由。へ。あ。士。が。殊心。を。殆。感。す。機。底。より。一封の。黄
 金。を。た。致。し。こ。き。を。二。願。小。配。分。さ。り。ま。づ。憐。漢。小。あ。る。て。い。ふ。や。ら
 是。小。ハ。老。母。の。心。小。隨。ひ。孝。養。を。竭。を。志。情。感。を。小。猶。あ。り。有
 色。バ。納。み。が。ら。遠。黄金。を。分。與。ら。る。不。あり。ゆ。り。とも。既。興。と。こ。ら。の。金
 ち。乃。子。が。私。の。料理。なら。む。平日。米。地。を。巡。檢。さ。る。小。不。時。時。災
 難。或。は。や。ら。困。窮。せ。し。む。倫。輩。が。皆。行。一。な。が。ら。世。の。こ。め。小。零
 落。せ。し。族。あ。ら。ば。号。を。駭。へ。く。目。下。危。急。を。故。ひ。その。上。小。も。其



長門言三 巻之七



清正の仁智
 よく木村
 井上と伏従

長門言三 巻之七

七

倫輩の不忘小應として。攬摠を盡しと頼てより。地頭たる人の定置
 き一恩澤厚き金子なり。隔心なく受納せられ。老母の病ひを
 養ひ玉へと最懇切小言諭し。まじ守封の金を取つて。封向の
 漢子小推搢此せりて。衣服を調達奉公仕官を擡げしらへ構
 へ無悪を裁されみと教導せしむ二個のこも小弱年ながら虎之
 助が厚き情志の詞小感し。落し涙小噴ちて。要時のを語も以
 謂ざりしが。稍ありて。偉漢俺們素小酒狂の刺り。所領分を強
 せしゆえ。そまぐの罪小取せらるん。偉天下の大法を以て。そ
 罪せさへ厚く。赦免せらるるのま知らず。多分の金子を賜ふ。所
 獲東を小詞と知らむ。おれを穉連し。急せらるる。猶失後の罪を
 累ねん。國主の仁惠貴士の恩義小随ふく。穉領つるつり母が

病ひを養ひまさん。母百年の身と養らば。后少の心懸糸上なり。
 遠大恩小報と欲を。ま眇小こそ見棄玉を。大馬小代ては。ま
 た多と涙と共小擡詢。バ封向の漢子も詞を共小し。加藤が敗く
 金なり。戴き思ひ設けぬ。偉小より。山海小も勝る恩義を。敢り報
 ゆる小その術を知らむ。其大恩小報ひん。まこと。誰こそも同し心あり。
 増くや我を母もなく。ま。哺むべき妻児も弱く。心小儲けし
 家り。なまき。バ衣服を調。草て。何國。向く推。糸。ま。き。廣希。へ。今
 より直地小貴君の穉小召置。き。薪水の用小當る。む。ま。ら。ば。遠。月
 の願望。満足せり。小居。初。ま。を。凌。間。く。零。落。し。て。六。以。得。む。も。原。中
 國の侍士。少。父。の。周。防。の。丈。内。家。小。仕。へ。忠。義。を。勵。ま。勤。力。せ。し。ま。君。臣
 の縁。誼。小。や。義。隆。全。の。滅。ぶ。時。他。國。小。ま。ま。死。後。ま。甲。斐。ふ。死

命を知らず。毛利元就志をく招けど。二君小仕へぬ義を因
ふ。身を山林の内小隠して。名を汚さざる終りを遂ぐ。小治
其時ハ幼稚ありしを。源家法者小養育せられ。不具人の如く成
長く。今兼十五歳あり。父ハ播磨大村の信人井上興次郎。嫡
子同苗大九郎長吉とす。若者あはれあり。叔父あり。井上五郎。小
子とりて。小早川家へ仕官せ初めぬ。父の本意小背くがゆえ。小
毛利一家小仕へせしめて。宴をつらつらひひぬ。と身の大難を告げられ。バ
虎之助介て感悦さ。我弱来小一と兄弟とゆふりのもわく腹心
とまづ。死人を得んとかり。と所領の地もなす。其技持を脱ふるカ
ら。吾も小一と双の勇あり。然るに大家へ仕官。隨分と立身せ
らる。然るを終の寸志小侍さま。我小仕へん不志。身小一とす。や

軟く。然るも斯る世の中。己を我ま。一城の主とす。利運か
ともゆひがし。よく又我と助け。匪分の忠を竭さ。是をバ功名遠く
四方小國へ榮花へ。心く子孫を傳らん。偉心然あり。と脱身面
小あら。をきて。至將の威風へ。へる。彼偉漢も頭を擡げ。涙を
拭く。吾等さ。や。信義を君臣の道とす。わい。なご。賞祿の多少
を謂さんや。鳥許。ある。あ。と。小居。が。素姓。も。一應。云。仕。せん。祖。八。字。多
源氏の度流なる。依。之。末。の。一族。末。村。源。之。成。綱。の。後。亂。末。村。又。義
と。票。し。一。門。あり。多。依。之。末。六。角。系。極。とも。いつ。く。味。遠。小。あり。や。れ
く。新。る。宴。々の。身。と。あり。ぬ。ま。と。心。を。う。へ。昔。を。學。び。城。持。流。小。も。若
る。ま。じ。只。塘。し。き。ハ。吾。君。の。業。み。不。微。少。小。ま。し。ま。せ。とも。仁。義。終。終。
小。長。く。あ。ふ。こと。老。翁。も。及。ぶ。偉。あ。と。は。し。新。く。明。を。守。達。ま。お。らせ。

末代小名を傳へんこと。開も小名が本意小名遠くぬら小立返り。忠勤を懋し申さし。と盟約なり。と列辭を報古師とさして辭去りさ。大九郎は。采小虎之助小隨従なり。長濱へこそ帰るれ。

加藤虎之助強慾望知行 属石田出才

頼伽ハ卵殻と出さして。其声衆鳥小勝るとり。今加藤虎之助清正年終殊小界りし。とも。天下小秀一英雄と二個まで。長とさる。澤實小九からさる。澄あり。然バ君臣の縁熱さる。响の天然小至る小や。清正既小大九郎を抱いて。長濱小帰る。し。り。ごも。いま。ご。領さる。知。り。け。は。い。は。い。の。せ。ん。と。思。惟。し。る。と。大九郎早くも。大。ま。を。と。察。り。清。正。小。朝。ふ。て。り。り。り。の。吾。公。友。の。と。愁。ひ

と。あ。ふ。ち。世。小。大。丈。丈。と。る。者。の。心。を。君。と。こ。そ。怙。め。末。後。の。多。少。を。恃。ま。し。の。世。を。濟。意。寧。く。お。が。し。め。せ。と。諫。る。詞。小。虎。之。助。猶。頼。母。く。思。投。終。く。秀。吉。の。忠。へ。出。小。臣。弱。年。小。山。一。ご。も。柳。原。お。は。し。ひ。バ。知。行。を。定。め。玉。え。と。餘。義。も。な。げ。小。重。出。り。秀。吉。所。て。諫。る。其。方。い。ま。ご。年。界。り。從。令。知。り。を。殿。さ。る。ご。も。自。分。小。賄。賂。難。く。べ。し。往。日。来。長。成。仕。バ。知。り。も。照。へ。老。黨。ご。も。抱。得。さ。せ。申。さ。る。ご。も。の。心。を。清。正。既。バ。出。軍。ご。も。老。黨。な。け。は。心。に。隨。小。功。名。あ。ら。じ。周。く。良。臣。を。杖。耆。並。十。分。小。播。を。や。と。お。り。起。て。ん。也。鳥。許。あ。る。願。え。つ。ら。ま。の。を。ぬ。と。所。て。末。下。ら。ち。笑。ひ。そ。の。願。志。を。神。妙。あり。然。ご。も。を。代。四。海。祀。ま。て。諸。國。の。英。雄。豪。傑。倭。祿。の。為。さ。小。從。を。官。に。界。さ。と。凡。そ。に。さ。を。我。さ。清。阜。の。奉。公。

分ぶん小こくくののままごご大名だいめいのの列りやくららむむ。國くにくく柵さく家けががトトハハハハ終はつつつたた勇ゆう士しハ
 任にん官くわんをを討うめめをを。然しかるる小こ某まが方かたをを至いたとと憑よまんまん者ものののあありりもも思おもえ
 ままごご。驗げん小こもも可か愛あいめめたた了りやう簡かんひひままごごもも。年とし至いたららぬぬババ家け政せいもも疎うこ
 今いま姑なほくくをを試し延えんししねねとと誦じゆをを加か藤とう強きやう善ぜん。君きみはは命いのちああひひへ
 ともとも。祿りやくをを望のぞみてみて奉ほう公こうをを高たか配はい武ぶ士しにに當ありり。他たのの強こふふ
 兼けん所しよををぬぬ小こ臣しんがが。技ぎ養やうとと存ぞんむむ武ぶ士しハハ當ありり。日ひくくのの不ふ會かいここ
 ああままがが當ありり。智ちののつつままのの比ひじじとと東あづまをを小こ秀しゆ吉きち備びのの清せい正せいをを既すで小
 臣しんトト語ごららひひ得えままごご也也。技ぎ持ちをを祿りやくののななれれまま小こ新しん之し榮えいしし
 ももののななまま。いいううなるなる者ものをを技ぎ抱うかんん。かかががへへららとと懐なつををここららへへ。
 虎こ之の助すけふふらら向むかひひ。備びハハ兼けん方かたののここじじしてして。臣しんをを免めん得えままああららん。
 如いののなるなる者ものトト同どうれれてて。清せい正せい膜まくら解かいてて威いき儀ぎ搢しんひひ命いのちにに如ごとくく者もの

らら。をを形かたちナナらら是こ不ふててひひありりととてて。井い上のう大だい九く舟しゆをを付つ出だまま秀しゆ吉きち是こをを
 法はふくく。視しるるにに眼がん光こうままるるどどくくしてして射あるるがが倭ごとくく。骨ほね方かた飽あままをを俾ましし
 されれババ。是これれ徒た軍ぐん小こハハああららむむとと思おもひひ申まを緒しよをを同どうババ大だい九く舟しゆ始はじめ終はつつ
 ままごご。東あづまをを小こよりより。秀しゆ吉きち大だい小こ感かん心しんなな。誠まこと小こ祿りやくをを心こころととせせまま義ぎをを
 以もてて身みをを達たつるる所ところ志し。大だい丈ぢやう丈ぢやうのの士しとと謂いわふふ。虎こ之の助すけ小こハハ過か分ぶん
 のの老らう黨たうとといいふふとといいふふもも。遠とほ弱じやく官くわんもも徒た軍ぐんななららむむ。生なま長ながるる後のち
 小こ至いたらら一いつ國こく一いつ城じやうののままごご。汝なんぢととくく補か佐さななしてして。軍ぐん事じをを
 教きやう導だうせせららまま。虎こ之の助すけもも大だい九く舟しゆをを腹はら心しんここしてして。兼けん軍ぐんをを語ごらら
 ひひ。そのその宜よろししたた小こ頑がんやや。自まづ後のちのの胸むねをを一いつ粒つぶ小こなな。大だい勲いん功こうをを達たつせせ
 小こややトト下げ辭ぢのの隅ぐまななくく説まを得えららむむ。虎こ之の助すけハハ五ご百ひやく斛こくのの初はじめ終はつ末まへをを
 究あて行あららむむ。初はじめ見みるるのの發はつありりととてて。衣い履ふ金きん銀ぎんをを相あ應おう小こ大だい九く舟しゆ

一服くはる井上殿は義清小使び恩を耐してぞ退出しる。
 秀吉井上を親送く。感悦する事終日休まど。わん叢
 著く野外の里や暑も味は溪谷の隈小せを道きてし
 武士の或は恨し隠者やあらん尋て試みやと思ひしは長溪
 小近江を涯の綱を鷹狩などて巡見し。神社佛堂を
 禮拝し。武運の祈禱と名づけらる。料足或は田村を寄
 附せらる。昔丹波を過される。當日親音寺といふ山寺
 小糸結せられ。雲時玄關小休らひる。任寺は僧徒
 走し。秀吉こそと堅く制し。拙家が休息をす。とら
 意形もど。懐くや。之宝物を犯さん。輝や。只願く。湯小
 堪ら。湯がら賜へとありし。响筆字の。小寺小まらる。相

親艶し。一少年あり。任僧渠小口属て。本下小湯を献せ
 し。秀吉こそ小目を属られ。此山寺小似相多。推童やと
 姑く着着て居りしが。今一梳と不望せらる。己若の少年。應し
 て共く。呈出。這遭の湯。初小比。加減の。熱く
 せ。秀吉。小燈ら。是徒輩。小あ。ど。ち。以。任。持
 の。僧。小。う。ち。素。ひ。這。少。年。ハ。怎。麼。なる。者。と。鞠。小。鄰。家。の。侍
 みる。筆。字。は。為。小。寺。入。せ。し。頼。く。小。答。り。秀。吉。少。年。を。呼
 ぶ。げ。遠。湯。ハ。少。年。心。あ。り。て。抄。来。り。し。歎。誰。ぞ。も。加。減。の。指。回
 する。は。歎。可。小。子。が。ま。づ。ら。加。減。し。抄。呈。する。ゆ。は。作。術。調
 候。乾。く。せ。玉。ふ。り。て。湯。を。飲。さ。せ。る。ふ。小。し。り。熱。き。の。急。小
 く。ら。ん。と。推。量。り。こ。も。あ。り。故。と。温。味。小。加。減。し。奉。り。せ。二。碗。と。作



東臣巴三編卷之八

十四



東臣巴三編卷之八

属らまゝ一由へ遠遣ハ初度不ど乾らせ玉とし熱くせたまふと
 一つに形ハ討らひてまつりぬと声も頼も清くけ小重なまを
 秀吉听玉ひ相續としひ行義としひ且ハ心中の羞略としひ
 尋常あじと賞兵一たひ。累く任僧小うち向ひ遠少
 年を得させん小やと懇望をたたりありなれば。少年は父
 を呼よせ如くの詞を言听り小其父秀吉の弟小出ら。秀
 吉渠が素姓を問ハ累代石田村小住居せ。百姓佐五右衛門
 とひひつるゆは。先祖ハ武士ら言傳おまとも素妻小せ
 室一ふ過せ。切てハ續兎一個ととも武家小奉公させまく思ふ
 心は通し。清小や。地領の清目小と名置ハ本望のよしと
 稟上ら。秀吉大ハ満悦せられ。少年の名ハと問せ。多ハ

今年十有二歳小して。名ハ作吉とぞ答へける。然らば汝が直下の
 名とて。石田作吉と号ふべし。直地小。直後の契約せられ
 弟便具して申ら。長淡の城小。歸らまら。

勝家守長光寺與兼頼戦馬敵新水路
 一石固ふして。萬歳これ小觸り小。うらを碎けとひ。小
 一。茲小。列武佐驛長光寺の城ハ柴田權六郎勝家ハ
 百餘騎小。穿城し。と。六角兼頼敗士を集め。ハ民候を
 召攬ら。五千人と引率。長光寺ハ城を攻め。と元飛
 元年五月廿有一日。稍篠の首を分る。割頭喊を。つ。推。

一。并も長光寺の城としハ。平場小築き。要涯を。憑。

一。と。信構ら。と。魅て六角兼頼。唯一。播。小。先。落。

こゝに圍小を築て諸城をも落す。と謀る。時小入道諸
 軍小魁を各見らる。遠小城の垣小もあつた。只一息
 小隘さきよ。と法勝を烈し。饒もさなれ。り。も傑氣は喘
 椎輩。こまを。し。と進。倚。向。不。背。と。攻。起。り。然。も。城。を
 柴田勝家素より所え。極將あり。こまを。依。る。老。黨。小。入。柴。田
 源。た。も。同。動。た。也。洋。々。丑。左。也。井。上。久。八。中。村。共。た。也。を。全
 り。了。究。竟。の。勇。士。あり。る。が。款。の。進。を。と。え。る。も。も。ち。つ。香。院。と
 子。強。く。擊。蕘。款。陣。正。黒。小。の。り。る。不。へ。驍。を。と。う。て。之。百。余
 騎。圍。門。八。文。字。小。推。用。偶。卷。款。陣。中。へ。槍。箭。間。つ。り。て。沖。て
 奔。る。中。小。も。大。將。権。六。勝。家。年。來。把。勢。し。る。大。十。文。字。の。長。槍
 と。霹。靂。の。像。く。小。擲。起。り。四。面。小。致。八。角。小。馳。人。を。死。傷。を。以。て

如く。こゝから鬼と呼ぶ。面表の見て怖れ。一息も向
 ふりのなき。忽地崩れて散亂を。勝家軍事小賢る。此
 進名を退散せむ。致率を纏めて邊邊を。兼領入道大。小。怒。り
 甲斐の自らの輸送。多くもあつた。城を。軍。小。威。せ。つ。し
 事。法。悔。し。さ。よ。先。惣。軍。お。て。攻。潰。せ。と。烈。火。の。像。く。憤。り。と。こ
 雲。彩。た。也。推。止。め。城。中。の。名。士。勢。も。さ。も。こ。の。恥。と。知。る。勇。士。也。
 必死を期し。る。軍。城。な。れ。ば。を。休。の。軍。八。自。兵。小。換。あり。ま。が。今
 日。の。諸。軍。を。休。せ。也。翌。天。朝。風。の。涼。し。く。小。針。鋒。を。殺。け。て。攻
 る。小。也。と。城。攻。の。方。便。を。叫。び。り。ま。は。入。道。の。も。怒。を。収。め。當。日。の。戦
 を。止。小。け。り。曉。も。た。二。日。の。早。郊。惣。軍。を。り。り。る。舊。地。小。推。進。之。雲
 か。指。揮。の。方。便。小。隨。ひ。二。千。五。百。と。之。隊。小。率。部。五。百。人。づ。二。隊。也。

△通考
左の絶不埋伏させ一千五百と二の見とる。遙隔陣小勦
させ。二千五百の益せりて。城隙をく推進させ。喊せりて
威を顯し。今天こそ是非小業取めと勢極くせ先起る。城中
もまゝ。昨天の如く。粉膏をて拒抗するも。進軍の傷亡夥し
く。隊伍次第をてまゝ。再び敗走せんと見くされ。喘氣の勇士五
六十人。嚙叫んで擲棄る。勝家こまを視く。大に愕然斯を思
慮。汝も益軍の如く。今天の軍の突發をとも。自軍小利を以て
收退入を返せくと。指揮をれども。已歎中へ冲投する。敵を
方便のある事由へ。右横左横小敗亡する。おり。ちやんとよが
をを呼り。勝家が指揮を耳おもけを。穿々然と致さし。六
七救ひ返さんとて。城益三百有余人。續ひて。葛地小致出たり。之雲

新た来つこれせんと。二の見小立る。一千五百柴田と迎へて戦を
音告せりて。知らされ。左右は。休兵。一万余。喊を。おいて。發
ち。ち。後と輯断。その隙。小進兵の二千五百。余騎。城小向ふ。く。せ。死
着攻つけ。射まとも。撃ども。事と。も。せ。ど。流丸を。此。越。箭。を。拂
を。遂。小。一。重。の。摠。構。を。う。ち。破。得。く。礼。入。を。紫。田。の。敵。を。前。後。小
を。見。傳。熱。寒。小。来。り。て。戦。ひ。る。が。後。の。敵。小。摠。構。を。破。ら。れ。う。り。と
視。く。く。れ。バ。愕。然。と。し。う。ち。驚。き。備。本。丸。を。取。ら。ま。り。て。ハ。遠。如。骨。體
小。及。ぶ。し。此。の。く。死。を。命。と。有。抱。本。丸。小。入。く。戦。死。せ。ん。と。大。喝
一。声。而。て。返。し。彼。敵。隊。を。擡。起。振。と。石。突。より。峰。尖。を。毛。血。小
濡。ら。さ。る。下。も。な。く。果。小。虐。ら。る。憤。腕。ハ。帝。釋。天。王。八。臂。を。振。ら。く
修。羅。軍。を。趁。が。像。く。多。う。六。角。勢。ハ。多。う。とい。へ。ま。遠。勢。威。小。當

豊臣評三編卷之十

東臣記三卷第七



柴田の猛勇
一遭六角の
軍勢を破る



東臣記三卷第七

十七

るゆはみく。散々小堀起らば中々用ひて通へり。諸家得たり
 と馬を逃らせ難なく一方せらば破れ。総構せらば近へ。過
 卷列する。六角堀を前後左右小堀飛し。自營を纏めて。其
 牙も辛く本丸のうち小堀入り。城戸を固めて支へり。猶小堀
 天下小堀と呼ぶこと。偽らじと欺なぐらも或ハ感ハあり。鷲
 き。紫田が所を讚嘆せり。諸家の本丸小堀極し。自營を見れば
 二日の軍小堀の重敷或ハ輕敷負さるゆはとて一個もなく。劣儀ハ
 いよく小堀と知り。殊小堀戦ひ疲さるる。惣構ハ破らば。諸
 最頼憑のまくなり。まども万丈不當の權ハ断る。まともも屋せど
 諸士を懸まし。勇氣を合し。謂るや。堀家ハ命のあらん。ゆは
 這城中へ敵とりゆは。一個ありとも。投まじき。敵を怖

を憤忠せよ。千辛万苦さるる。ち小ハ自營の後援もある。居た
 もの。然るくとも是當城ハ己は。倅が墓。不と心を決せ。其
 て安くかみさる。勢ハ脱氣を折させ。そと教訓せ。そと防衛
 こそ。まの。佐々木の軍勢ハ日々。方術を工夫して。展轉く。破られ共
 落城まづ。氣色も。いへぬ。こ。雲ま。く。工夫。ま。人。を。勅。め。て
 淺井家へ和睦の詞を。謂容。ま。長政。こ。大事。あ。し。依
 本淺井家。和議。せ。猶。も。越。前。も。使者。を。達。朝。倉。家。を
 合辭。させ。之。旁。一。度。ふ。ち。起。つ。鐵。田。家。を。包。お。ふ。な。さん。と
 計り。六角。家。ハ。紫。田。が。守。城。長。光。寺。を。破。ら。ら。長。政。ハ。本。下。が
 激。ち。る。長。濱。の。城。を。攻。落。さん。と。軍。の。評。論。を。せ。れ。る。然。れ。ハ
 兼。換。入。道。ハ。淺。井。の。合。辭。を。大。小。堀。比。早。く。當。城。を。攻。臨。し。自。軍



六角承禎
 駈卒們
 令ト
 長光寺城の
 水路を
 断る

小説氣を添へんものと落び長光寺の城を圍む遠と死郷氏は
 群の中より懸つた者ありたるが進み出くぬるやう當城中小弁
 の果なく。義昔より算あう。城中の水を堰きり今も定めぬ
 あつた小備遠連筒を截落さる。城中忽ち渴死を乞ふ。と云は
 たるを新大連の口も重容らうとて。その郷氏を導指者とし
 城に背路小攀廻る。樹間岩間を穿らる大樹の筧を搦ら
 へ。つゝやそこそ城中の今に羈斬截る。励めんと自他
 とも小弁滅せうと振く。難形く掘を吹落し。頃ハ六月
 の初より暑氣冷々と烈し。城申定めて水小渴。難免を
 らんとおひひの外をとしも窮する。軍をかく。昨日小備らで拒抗
 せ。これハ柴田が籠城のそとぬ。算をうけ水少。始終危く。いと

あらんと井と之回箇所小穿せり。又筧の水を斬り。ともさのそ
 固窮せざり。新とも知らむ。六角方の定め。落城を死小
 あり。攻隊の兵士を勞する。自軍のこめあり。と軍を止る
 窺待。態ども城中弱る。熊のつへぬ。兼禎訪し。平井神助を
 使こし。城中へさし遣えし。勝家小對向して。數日の籠城防
 禦の漸く。弓箭の位。頭を。を。の。を。矢。人。より。城を
 開く。退去。あり。御も非通。の。と。入。道。の。口。水。を。流。れ。れ。後。家
 使者小備へ。回らく。斯穿城を。つ。ま。り。も。勝。家。一。個。の。雷。の。こ。ろ。を。を
 老黨。依。ま。も。一。致。して。城。を。臺。所。と。お。ひ。ひ。定。め。防。禦。を。は。さ。す
 事。な。れ。ば。更。極。の。輩。も。ま。く。所。せ。此。より。返。る。ま。ま。と。一。と。弁。く
 神助相意。列陣を。報。く。ら。も。奉。り。兎。後。小。洗。水。を。と。れ。ば



城^よ中^{ちゆう}渴^{かつ}み^の臨^{りん}ぶ^ぶ
 六角^{ろくかく}の^の使^し者^{しや}と^と
 欺^{あざむ}く^く

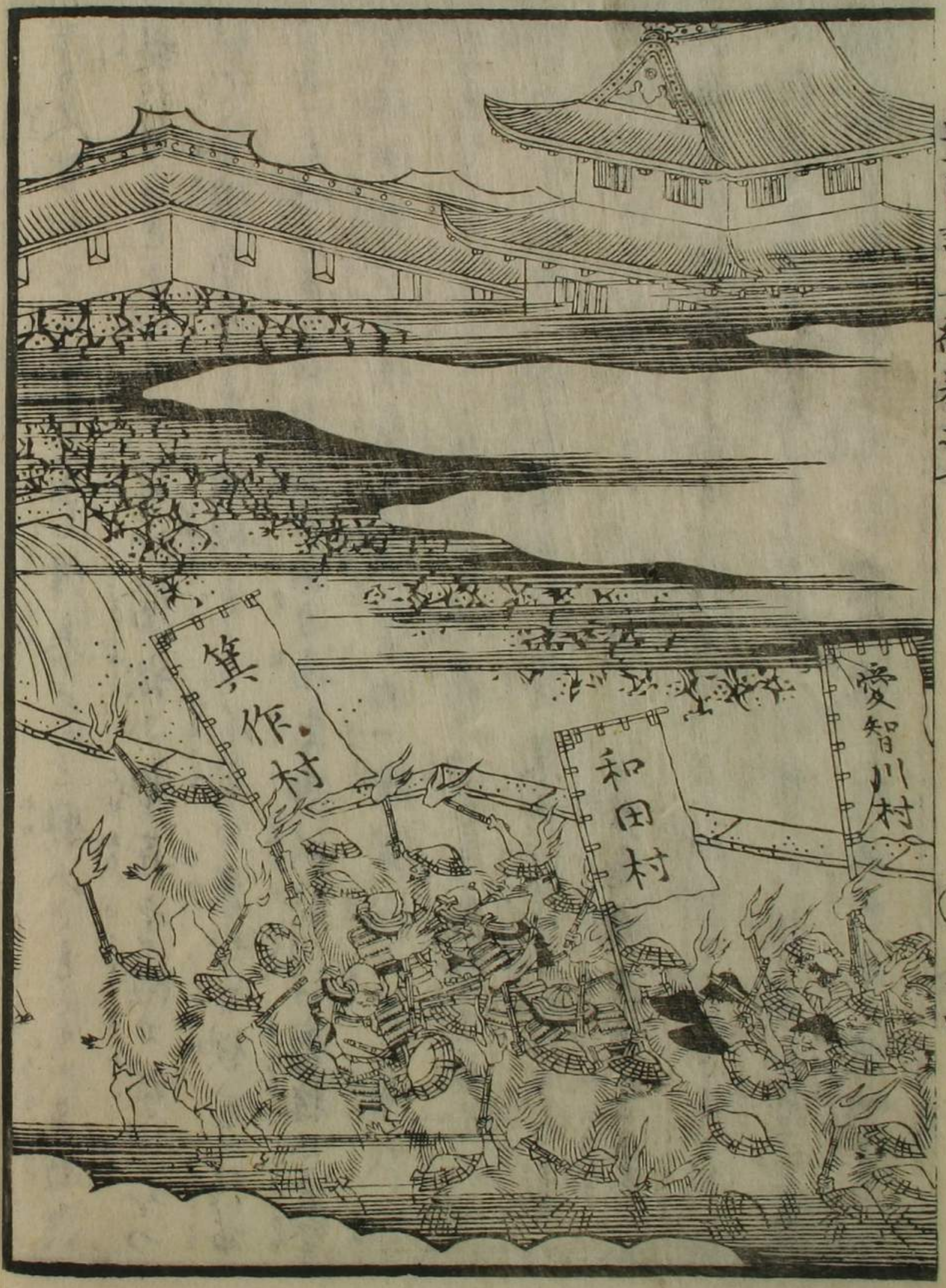
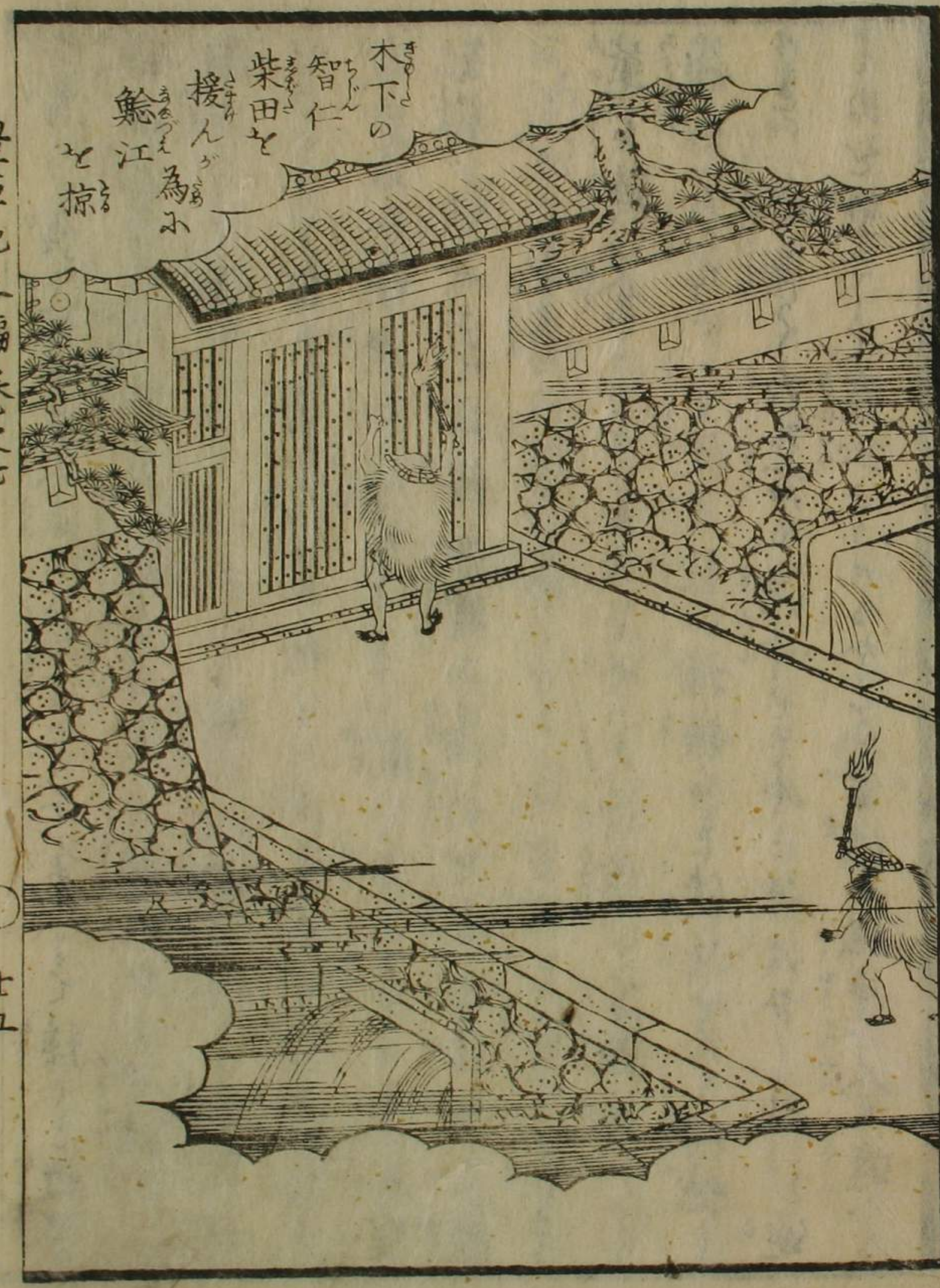
柴田が兎從突と扱て大西小清水を漫く汲盡二個して泉出
し来て神助小洗をせつらるを殘りし水を掃り洞庭へ撒き
たて神助を流月小見行儀の城中令りつて水小窮せぬ
曉蹊あり心得をと思ひながらも府殿を歩出しが塔裏の洞協
をりて流きかあまこの殺氣裸小あり。沐浴つてつるさふ少し
も渴せし態なり多し。平井まをりし。軻果て登り本陣小を陣集
領の帯玉て柴田が返答目へりし。城中の曉蹊を告りし。入道
案小相遠しと。外小方便を。と評法のとて徳小雨。日
と過りし。

秀吉智計棄魏の救柴田爲勝家破蒲

圓魏救趙の計略を。二千年來功名なき小。茲小本小が謀
る。不の寛勇源義成と知らむ。然バ遠時に別なる。信長不欣
の城く。小の佐久間安藤森稻葉丹羽などの。諸豪傑。その
一。小村小左と。つとも。一揆諸方小聲起して。諸城を攻む。の。綱
たれば。つもの諸將も。城を出く。柴田を救ふ事を得。を。手小
汗握く。在り。り。り。が。こ。小。本。小。藤。吉。高。の。城。小。左。と。政
道。誠。小。心。願。ひ。る。由。へ。百。姓。都。て。心。服。し。け。ま。六。他。郷。の。一。揆。も。長
演。領。を。犯。さ。む。偶。々。犯。を。り。け。お。ま。バ。領。民。渠。依。を。制。し。止
む。こ。ま。小。より。て。本。小。秀。吉。長。光。寺。の。柴。田。を。救。ふ。一。と。て。諸。士。を
集。め。て。謂。々。る。や。勝。家。の。名。を。嫌。が。由。へ。小。日。來。不。敗。あり。とい。共
何。と。て。これ。を。外。面。小。見。る。明。輩。の。好。を。棄。つ。れ。や。今。長。光。寺。落
城。せ。バ。柴。田。必。定。戦。死。を。づ。見。難。し。小。せ。バ。不。忠。あり。不。信。あり。自

軍も大小脱氣を折入禎て蹶蹶を拂らさる小昨今水の渚
と断る落城目暮小左といひ先救せんむと自勝を勝り長
濱城をうち起るが頭小思案しるや備家さまを姫死んで
仇讐の如く小おりり我今長光寺を救ふならびこまをりつと
なりとしてままたく遺恨小おりふべ。然バ柴田の體力少て進
の退散さしささる小謀ふべと工支せられ長濱城の百姓を
二百人ほど蒐集め一揆の躰小打拵せ踏踏行へ六月二日夜も
たや亥中の刻頭ありしが兼頼入道の借小居任を籠江の城
江列の井崎（走向不既小城門際をくさせより百姓軍小呼せてさ
やうこれの意より六角殿へ浙自軍りあせ一揆あるがこのさ
長光寺の柴田勝家水江路を断絶ささ穿城うむひさる

より人質を出して證となし降参せんと願ふささども六角殿の
疑うせらささ其入質を當城小誓居言瀬刀孫小心をつ
けて守護あるとの所詮小より人質の軍をる候より信取
るゝと嘆ちしる當城の苗吉居高瀬刑部門の寨據小走登
り仔細城外を視部せ備ならぬ一揆を依く木の壘致を印
こまばささしも意小疑うを面道の門をうち開き二百余人は
機軍を城中へ招寄柴田が入質受らんとお心もなく出連ふ
と百姓が申小義をりて身を避さる堀尾輝次賀ま山を
の諸勇士徹途へ武士を斬倒しその次投といふま小四方八面
へ強弓その尾小属さる二百余人竹槍うち振り喊をつり虎瓶
借勢のさなを思ひの随小捲られ城申大小慌忙さ上御



下首して其く地をころへ本下藤吉舟千余人して鎮くと推登
 隊伍をささむ攻投はまは城をまわして糧視をひり歎か小
 難をいそぐ備をいそぐ拒抗やと難に相撲を設く衆指揮
 をみせども留まらむ二日の夜中の圍をさへらじいづきが敵を
 自軍やら視決むる澤ありごとく劇つるむりありき敵對
 公軍あらぶこそ右横左横小藩江を秀吉指揮して遊
 るを逐たむ意の隨小藩しるふぞ方儀を城中小止ま
 華百騎小余らざりしを六箇中の大將難に言瀬悠とら
 籠城するひがじを從大敵小捕獲らむ徒換せんも朽憾
 なく一應落くたむ右も流冷せむやと伴後かゝ敵は遊
 せぬを壁ごとく遁出するらむかどふ方儀の城中一人も遮つ

軍もなかりしうふ本下勢の一斤の重さへ負いしを難江の城と事
 紫取らり。このまに六月の日は敵軍やてまつて佐々木使
 申し平井神助長光寺へ来りしは公邸に之日の正午あり狗
 小指六勝家の使者神助が歸るやの思案を決して城中
 諸士群衆を呼ばめ視る兼備く貯置する之斛入の
 水筒を四五ほど安排こそ小冷水を漫々と汲容をく備
 けし。籠城やあるとかりふ違ふを今日はや井の水も暑中
 の天を小蒸まきや吞べりしも既小盡らり然も既武將
 勇の柴田勝家をもしも屈せむ諸士小向ふく重くはらう
 我も君命小より當城中小將こそ六箇勢小捕獲られ
 遺く突發決戦しこれ既小武士のみをばらわとて做果せ今

天小至き。然る小昨今城中へ通むる連筒を斬落さる。群卒
 水小固窮を。些微の井水と。あても。空暑次。不烈して。泉
 源。涸まり。痛こと。微し。新く。軍力も。頼小。吾へ。軍威も。減む。道
 理あり。今。天を。雄く。防戦せし。も。これ。一人の。臂力。小。あら。ま。
 全く。驍卒も。侍士も。君の。祈恩。を。厚く。かり。ひ。弓。箭の。道。を。活。し。
 と。心。小。決。思。し。由。一。し。遠。城。廓。を。よく。守。り。自。他。も。小。運。を。用。
 公。君の。祈。願。小。入。ま。ま。り。せ。恩。賞。の。地。を。重。く。し。け。者。の。功。を。酬。
 せ。べし。と。昨日。ま。でも。思。極。し。小。俺。們。が。運。命。も。や。ら。ず。水。路。を。
 破。ら。も。惣。構。へ。案。取。ら。ま。本。丸。を。う。り。せ。ち。し。し。も。援。助。の。將。佐。
 も。出。来。ら。ま。此。期。小。及。人。で。渴。死。も。も。勇。士。の。好。ま。ぬ。所。あり。然。と。て。
 又。城。を。開。き。敵。小。降。も。朽。憾。し。各。の。心。を。い。な。さ。う。此。勝。家。の。心。を。

決し。今。宵。敵。の。陣。へ。攻。投。か。り。ひ。の。随。小。血。戦。な。し。一。も。運。ま。
 う。驍。卒。小。敵。を。退。散。さ。す。再。び。城。を。固。く。守。り。て。君。の。出。馬。を。ま。ち。
 申。さん。死。生。へ。今。宵。の。一。拳。小。あり。我。と。同心。ま。る。人。の。と。く。侍。て。こ。の。
 水。を。意。の。随。小。吾。玉。へ。原。の。水。を。貯。へ。し。火。矢。を。防。ぐ。ん。あ。り。
 一。が。方。僅。の。周。り。の。小。あ。り。ま。る。も。立。傷。く。吾。も。よ。と。大。音。声。小。
 下。禱。し。ま。ま。の。大。將。軍。も。宣。つ。る。何。を。一。個。命。を。惜。ま。命。せ。り。
 宵。さ。す。ま。ま。に。我。こ。そ。魁。戦。さ。る。ま。ま。の。魁。へ。吾。んと。異。口。同。言。小。我。
 も。く。と。起。寇。を。起。抄。か。つ。把。巻。さ。う。ま。る。傍。家。せ。免。爾。と。う。ち。笑。ひ。
 遠。勢。小。く。吹。く。出。な。い。う。あ。る。天。魔。修。羅。王。ま。ま。怖。う。と。こ。病。
 掌。て。な。し。と。読。ま。ら。ず。な。し。指。揮。を。餘。れ。る。水。を。馬。の。洞。に。め。
 復。常。多。し。め。か。の。く。突。起。意。愉。快。や。此。上。の。時。も。早。く。う。ち。



豊臣記三



勝家水筒を碎く
 自軍小勇を擡ぐ
 實説桶のつとむ
 流俗まへ、瓶破柴
 田の以傳、我のてらへ
 瓶の子

豊臣記三

七

費ひら多おほと勅しつむる詞ことば小權こごん六席ろくせき中なかををととくく 號なづんんぐぐ 四し方ほうをを視みじじしし。
 門かどくく 水みづ小能このうきき 体ていありあり。此こゝ上うへハハ唯ただ款かき小向こむかひひひ 戦いくさ死しななしてして 假かりをを分ぶん。
 又また是こゝのの遠とほ水みづ箭やもも 何なにせんせん。先まづ發はつ軍ぐんのの奉ほうぐぐここめめ小未こみ破やぶららんとと大おほ。
 此こゝ方かたをを死しぬぬれれ挿さかせせととつつとと 次つぎ放はなてて 利き利りとと一ひと身み着き 彌や挿さか板いた。
 ちち八や方ほう小散こさん乱らんしてして 信しん味みよよげげ小碎こくずとと 鞭むちとと大おほ笑わらひひしし 舟ふね便べん馬ま小こひひららしし。
 ちちらら 渡わたりり 馳はせせししとと 馳はせせらら。台たい儀ぎ 猪ぶ家かがが 挿さかせせとと 碎くずきき 出い軍ぐんををせせしし。
 心こゝろををいいふふ 殺ころすす小必こひつ死しのの意いをを忘わすれれしし。雷かみ身みをを烈はげままさんさん 為なすす 小形こがた。
 ちちををいいははるる ちちををいいははるる

繪本豊后勲功記之編卷之七終

